

ネパールでの大学紹介フェスタに、今年2月初めに行ってきた。ネパールから海外への留学先は、今まで英語圏の人数が高かったが、最近では日本にも目を向け始めたという。純粹に教育研究を志すこともあるのだろうか、ほとんどは留学先にとどまって仕事の機会を求めめるか、帰国後に日本語を話せることを生かして仕事に就くためという。要するに、国内にはやるべき仕事が無いという。連邦民主共和制の歴史ある国ではあるが、2700万人の人口で100以上の民族、93の言語や地域語があるという。ヒマラヤ山脈の観光が売りとなって、貿易輸出品は衣類、紙製品で近代化に大きく取り残されている。国益の面で隣国のインド、中国との関係も薄いように思われる。4月25日の大震災の映像を見るたびに、貧しい国に、なぜ打撃を与えるのかと、自然の恐怖は見境がない。煉瓦工場の高い煙突も倒壊したのではないか。

## 教育のグローバル化で世界の平和を



一般的に自然観光資源、天然資源などに恵まれた国や、民族紛争、領土紛争が続いている国は、ほとんどが開発途上国といわれ、先進国ではない。農業国もまたしかりだろう。

先進国とは工業先進国と置き換えることができる。資源の乏しい日本が世界有数の経済力を維持しているのは、明治以来のグローバル化によるものであり、その結果としての教育力によるものである。徳川幕府までの、世界から孤立していた、また西欧に立ち後れていた時代から、およそ100年で工業先進国の仲間入りを果たした。工業化が進む中で戦争という不幸をもたらしたが、このことが技術立国へのバネとなり、近年では先端技術によって応用工業力の発展がめざましい。

ネパールからヒマラヤ山脈を越えると中国チベット自治区がある。この山間部に住んでいる子どもたちは学校に行け

なかった。小学校も無かった。チベットの歌姫バイマーンジンが自力で学校を作った。小学校の次に中学校も作った。教育の無いところには何も育たないことを誰よりもよく知っていた。国を富ますには教育しか無いのだ。日本は明治時代に入って西欧に留学生を派遣し、技術を導入し工業立国の道を歩み始めた。資源が無きに等しい日本は技術力によって経済力を身に付けることになった。初めは技術を導入したが、それを発展させ新技術を開発していくことは教育研究の成果に他ならない。経済、法律、文学などの教養があつて技術力が開花する。

日本には778もの大学がある、と自嘲めいた言い方をする人がいる。大学教育にほど遠いと言いたいのだろうか、この全ての大学で学んでいる学生がいるということとは国としての大きな強みであろう。なにも有力大学だけが社会を背負っているわけではない。富士山は、なだらかな

## 五十嵐 久也 ● 学校法人芝浦工業大学理事長

裾野によって美しい日本一の山になつてゐる。裾野がなければ山は存在しない。底辺の広がりが大きければ大きいほど高い山となる。教育研究も、トップを支える社会が無ければ一流にはなり得ない。

グローバル社会とは、境界のない一つの社会を意味するのだ。日本は西欧から学んで技術を得た。今度は途上国の教育研究に手を貸すことが求められるのではないか。アジアの途上国を工業国に育てることができれば、先進国だけが工業製品による利益を享受することにはならないだろう。働く場所が無いと失業者が溢れ、民度が低下し暴力がはびこる。教育研究のグローバル化によって貧しい自給自足社会から抜け出し、国際社会の一員となることで平和的社会も近づいてくる。貧しさゆえに民族間衝突や権力闘争が起こり、紛争をまき散らす。この現実に対し、世界に学び世界に貢献することがグローバル化の要諦であろう。